

誰一人取り残さないために、野外教育に何ができるのか

子供たちを取り巻く社会的課題として、コロナ禍による自然体験の機会の減少、学校外で行われる体験機会の格差などが指摘されています。このような背景から、実行委員会では今大会のテーマ「すべての子供たちに野外教育を～誰一人取り残さない社会を目指して～」を設定させていただきました。

本シンポジウム直前の基調講演では、養老孟司氏より「すべての子供たちに野外教育を」というテーマで、子供にとっての自然体験の意義を広い視野からご講演いただく予定です。そして本シンポジウムでは「誰一人取り残さないために 野外教育に何ができるのか」とテーマを設定し、自然体験について「誰が取り残されてしまっているのか」「何が求められているのか」「どのように届けるのか」といった点を掘り下げていきたいと考えております。シンポジストの皆さまには当事者、支援者、実践者、行政職、というそれぞれの立場から話題提供をいただき、その後のフロアの皆さまも含めたディスカッションを通して「野外教育に何ができるのか」について考える機会としたいと思います。

- シンポジスト
- | | | |
|-------|---|---------------------------------|
| 吉岡 マコ | 氏 | (NPO 法人シングルマザーズシスターフット) |
| 今井 悠介 | 氏 | (公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン) |
| 原田 順一 | 氏 | (みんなのアウトドア／一般社団法人日本アウトドアネットワーク) |
| 和田 真穂 | 氏 | (こども家庭庁) |

コーディネーター 吉松 梓 (明治大学)



【シンポジストプロフィール】

吉岡 マコ 氏（NPO 法人シングルマザーズシスターフット代表理事）

東京大学文学部で身体論を学び、同大学院にて運動生理学を学ぶ。出産後の心身の過酷さを体験し、1998年産後ケア教室を開始、2008年NPO法人マドレボニータを設立し産後ケアの普及や啓発に尽力した。2020年に同法人の代表を退きシングルマザーの心身の健康やつながりを支援するシングルマザーズシスターフットを設立。チームビルディング、リーダーシップ開発など活動の幅を広げている。



今井 悠介 氏（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事）

1986年生まれ。兵庫県出身。小学生の時に阪神・淡路大震災を経験。学生時代、NPO法人ブレンヒューマニティーで不登校の子どもへの支援や体験活動に携わる。東日本大震災を契機に2011年チャンス・フォー・チルドレン設立。6000人以上の生活困窮家庭の子どもへの学びを支援。2021年より体験格差解消を目指し「子どもの奨学金事業」を立ち上げ、全国展開。



原田 順一 氏（みんなのアウトドア／一般社団法人日本アウトドアネットワーク事務局長）

JALTに参加し野外業界へ。その後、湘南自然学校に従事し、JOLA2019にて優秀賞受賞。2023年にみんなのアウトドアを設立し「アウトドアをすべての子どもたちへ」をMissionとして活動中。チャンス・フォー・チルドレンでの、体験格差をなくす取り組み「ハロカル」のコーディネーターとして、JON事務局長として組織運営やひとり親家庭支援を担当している。



和田 真穂 氏（こども家庭庁長官官房参事官（総合政策担当）付参事官補佐）

2014年4月内閣府入府。

政策統括官（防災担当）付参事官（緊急事態対処担当）付応急体制担当主査、政策統括官（政策調整担当）付参事官（子どもの貧困対策担当）付参事官補佐などを経て、2023年4月より現職。

